

【全体概要】

キャベツ等露地野菜産地では、安定生産を目指して排水性の改善や土づくり等の試験に取り組んでいる。これらの試験では、ほ場全体の生育や土壌の状況を把握し評価することが望ましい。そこで、ドローンを用いてほ場を空撮し、生育や土壌の状態を俯瞰的に把握し、技術の改善・普及につなげる手法を実証する。

新品種・新技術等の概要

- ドローンによる露地野菜ほ場全体の生育・土壌状況の把握
- 植物体被覆率等新たな評価方法



キャベツの被覆率を調査

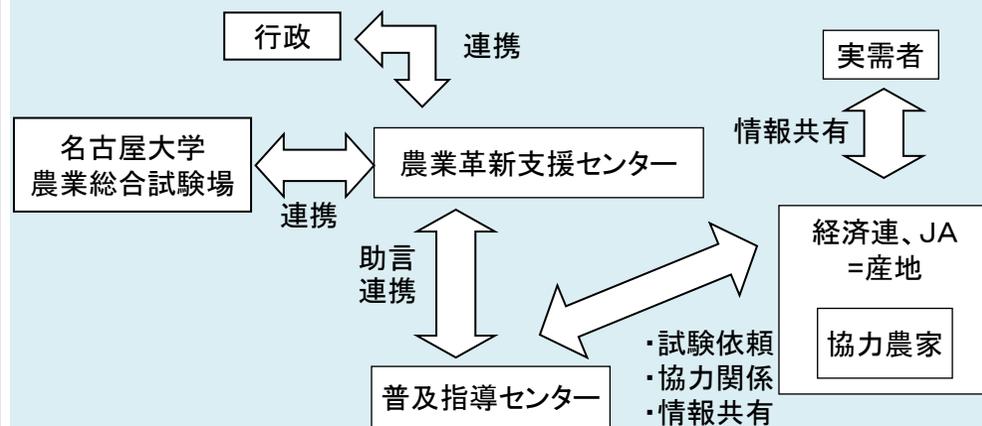


緑肥の生育ムラを調査

主な取組内容

- キャベツ生産ほ場において、定植前の土壌鎮圧による表面排水対策の実証ほを設置。土壌条件の違いが排水性改善効果に及ぼす影響を調査。
- 生育・土壌の調査は、慣行の葉長や水分等の計測に加えて、ドローンによるほ場全体を空撮し、画像から植物体被覆率を算出。

実施体制図



課題と今後の対応

- 土壌鎮圧による排水対策の効果について、ドローンの画像から算出した植物体被覆率を検討した。
- 特に粘土質土壌では、土壌鎮圧によって植物体被覆率が低下し、生育がやや不良になる傾向があった。
- 2年目は、土壌鎮圧後・定植直前に深耕する実証ほを設置し、排水性改善技術を組み立てる。合わせて、ドローンによるほ場と生育の状況把握を継続する。